

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2025 年 1 月 31 日

事業所名 マイステージひまわり西九条

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		学習スペースなど、配置の改善を行っている	さらに怪我無く過ごしやすい環境を整えていく。
	2	職員の配置数は適切である	8		専門職の配置	理学療法士や音楽の先生など多種多様な資格や経験者を配置
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	1	限られたスペースで取り組みの内容を変えている	児童とスタッフ人数で狭く感じることがあるため、活動内容などを考慮していく必要がある
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8		その都度の業務改善会議を実施	正職員を中心に療育の質を高める会議と情報共有を実施
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		個別でのやり取りと共有	情報のフィードバックをおこない、スタッフ全員で改善を行っています
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		HPで公表	保護者へはQRコードで配布
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	5	福祉関係に強い人材に評価	外部からの研修時に評価をいただいています
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		オンライン研修の導入	スタッフの資質向上のための資格取得支援や研修の実施
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8		スタッフでの会議で情報共有	見直しなどを行い、支援につなげています
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		大阪市指定の書式	災害時などでも対応できるように独自のシートも準備
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		療育担当の専門職が対応	全体で商大を共有していく
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		専門性のある療育を実施	特性をさらに理解して行えるようにしている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8		事前に会議を実施し、採集は当日の朝に共有を行っている	定期的な療育の質の向上
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8		障害特性により、かかり方を選定	小学生以上でも学習状況や理解度によって実施する内容に変化をつける
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		ボードで可視化している	目標と目的を共有し、できるだけ統一した支援をしている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		ミーティングを実施	翌朝にさらに改善点や共有ポイントを話し合っている
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		記録の徹底	月一回の個別療育状況の振り返りを実施
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8		1か月に一度の個別支援計画の会議	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	8		基礎プログラムの周知徹底	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		児童発達管理責任者もしくは療育担当者が参加	内容をスタッフ間で共有し、療育に生かす取り組みを実施
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	2	保護者様を通して連携を実施	下校時間や待機場所などの情報を共有
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	6	現在に対応していません	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8		利用情報の共有	支援計画や障害特性など情報共有を図っている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8		利用情報の共有	就学時には情報共有を行っている
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	2	その都度、連携として情報共有を実施	今後も継続して行う必要がある
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	6		今のところ、交流できる機会はない
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	8		子ども部会に参加	施設代表が毎月参加し、情報を共有している
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		ラインや連絡帳などを活用している	定期的な聞き取りを実施していく
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	5	必要があれば実施	相手の状況を見て、提案していく
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			読み合わせを行っている
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		こちらからも定期的な声掛けを行っている	定期的な声掛けで実施しやすい環境を作っている
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	4	交流会の開催は不定期になっている	不定期で開催になり、来られるメンバーも固定のため改善が必要
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		電話やオンライン、事業所など選択肢を準備している	相手に合わせた相談スタイルを作っていく
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		行事などのおしらせを配布	わかりやすい資料を継続的に配布できるようにしていく
	35	個人情報に十分注意している	8		使用許可の管理	写真や情報共有の範囲などをまとめて可視化している
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		可視化だけでなく、声掛けなどでも実施	情報の可視化など改善できる点をこれからも改善していく
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	6	個人情報の観点からなかなかできていない	まだまだ地域での取り組みは実施できていないので、できるようにしていく

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	会報などの発行で周知徹底を行っている	周知徹底を行っている
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	訓練の定期的な実施	療育プログラムでも実施
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	研修の実施	オンライン研修などでも知識を深めている
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	契約時に説明	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	チェックシートの作成	その都度、保護者様へ確認
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	事例ノートの作成	事例検討会を開催し、未然予防などに取り組む